聖学院 2016 現代文 概要

**日時**

11月7日（月）から11月19日（土）の2週間。全8コマ。

**対象生徒**

聖学院高校 2年C組（特進クラス）。14名。

**テーマ**（教材）

井伏鱒二『山椒魚』

**目的**

1. 細かいところまで繊細に気づいて、読み取って、探求することを学ぶこと。

2. それを通じて、文学は客観的に読めるものなのだ、と実感すること。

※ 2点目に力点。

**目標**（目的を評価可能にしたもの）

1. 普段読み飛ばしてしまいそうなところに目を向け、問いを投げかけられる。

2.「なぜそう読めるのか」を説明できる。

**成果物**（目標に対応）

・ジグソー法その他のグループワークを通した読解

・問題作成と解説

**ルーブリック**（目標に対応）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | E | D | C | B | A |
| 読む【目標①に対応】グループワーク・問題作成で | 文章を読まない | 文章を読むが、何も問いを持たない | 文章を読み、問いを持つことができる | 文章を読み、問いを言語化できる | 文章を読み、問いをもとに考えを深めることができる |
|  話す【目標②に対応】グループワークで | 話さない | 読解の根拠を持たない | 読解の根拠を説明できる | 読解の根拠を、客観性を持って説明できる | 読解の根拠を、客観性を持って説明し、他者の意見と比較し深めることができる |
| 問題作成【目標②に対応】問題作成で | 作成しない | 本文のテキストを組み合わせた問題が作成できている | 根拠が不十分であるが本文のテキストを解釈し、問題を作成できている | 本文のテキストを根拠を持って解釈して、問題を作れている | 本文のテキストを根拠を持って解釈して、客観的正答のある問題を作れている |

**単元の指導計画と評価計画（8コマ）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主な活動 | 時間 | 指導上の留意点 | 評価規準（ルーブリック参照） |
| 1 | ジグソー法① | 導入（7分）通読（15分）第一印象記入（10分）エキスパート活動（10分）まとめ・諸連絡（2分） | ・「文学は客観的に読める」とアナウンス。・生徒の動きが複雑なので説明は丁寧に。 | 読む話す |
| 2 | ジグソー法② | 導入（5分）エキスパート活動（22分）ジグソー活動（15分）まとめ・諸連絡（2分） | ・各グループへの声かけを丁寧に。 | 読む話す |
| 3 | ジグソー法③ | 導入（5分）ジグソー活動（20分）クロストーク（8分）第一印象との比較（10分）まとめ・諸連絡（2分） | ・クロストーク（班ごとの発表）は、ファシリからの解説に差し替えても良い。 | 読む話す |
| 4 | 疑問に思うところを出しあって班内で話し合う | 導入（3分）個人ワーク（10分）グループワーク（15分）ファシリから情報提供（10分）本時の振り返り（5分）まとめ・諸連絡（2分） | ・個人ワークの時間はグループワークの時間と独立させて、集中して取り組んでもらう。 | 読む話す |
| 5 | 問題作成① | 導入（３分）良い問題とは何かのワーク（28分）問題作成に使いたい部分を選ぶ（15分） | ・問題作成を通じて何を学んでほしいのか説明。・良い問題とはどんなものなのか、理屈だけでなく納得してもらう。 | 読む話す問題作成 |
| 6 | 問題作成② | 前回の復習（３分）選んだ部分の分析（18分）問題・解説作成（25分） | ・良い問題とはどんなものかを再度説明。・なるだけ本時中に作成を終えるよう伝える。 | 読む話す問題作成 |
| 7 | 問題作成③ | 問題・解説の手直し（5分）問題を解き合う（35分）問題作成の振り返り（5分） | ・「客観的に」解くよう伝える。 | 読む話す問題作成 |
| 8 | 主題（近代知識人への批判読み取り）→自分に重ね合わせる | 導入（3分）ワークシート記入1（10分）グループワーク（3分）班ごとに発表（5分）ワークシート記入2（10分）ワークシート記入3（6分）ルーブリック記入（8分） | ・難易度の高い内容なので、丁寧に手引き。 | 読む話す |